



題字・天野貞祐

第97号

令和3年12月15日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 木原正義

主な内容

オリンピック・パラリンピックを終えて	木原正義	(1)
令和3年度 通常総会 報告		(2)
目白だより	松本麻里子	(3)
同窓会を振り返って 獨協同窓会を偲ぶ	黒沼昭夫	(4)
同窓会を振り返って あの頃の思い出	宮田和夫	(6)
卒業生紹介 大池茂保さん		(8)
獨協ぶらり旅		(11)
OB会 紹介コーナー サッカー部OB会	沖山秀司	(12)
私の近況		(13)
趣味のコーナー		(16)
編集後記		(18)



<https://www.dokkyo-mejiro.com>

<https://www.facebook.com/groups/297418860299984/>

オリンピック・パラリンピックを終えて

会長 木原正義 (昭和47年卒)

初めて中国で新型コロナウイルス感染者が報告されてからまもなく2年が経過します。本邦でも今年8月には1日の感染者数が25,000人を超えていましたが、10月に入り1,000人を下回り、緊急事態宣言も解除されました。ようやく明るい兆しが見え、1日も早くコロナ前の生活に戻ることに期待感と、次の感染拡大への不安感が入り混じった複雑な心境です。

今年はコロナ禍の真っ只中、57年ぶりに(1年延期されて)東京でオリンピック、パラリンピックが開催され、日本人の活躍もあり大いに盛り上がりました。1964年に行われた第18回東京オリンピックを生で体験した世代の私にとってはとても感慨深い大会になりました。

コロナの影響で本年度も同窓会事業は大幅に縮小され、総会後の懇親会(椿山荘)、春秋のアルカディア市ヶ谷で開催予定の幹事会が中止となり、また学校でも感染予防のため入校制限もあり、残念ながら集会にて顔を合わせる機会がほとんどありませんでした。総務委員会、幹事会、常任幹事会ほか主要な会議はリモートで行われ、様々な形での会合が試されました。また、リニューアルされたホームページはとても見やすくなり、スマートフォンから操作できるようになったこともあり、同窓会への参加希望者も徐々に増えてきました。

獨協通信は例年通り春と秋の2回発刊することができました。本号では獨協同窓会に深く関わった2人の大先輩に特別寄稿をお願い致しました。黒沼昭夫さん



1964年 東京パラリンピック

11月8日 代々木公園陸上競技場に入場するに日本選手団、大池さんも共に行進した。

車椅子の後に続く左から2列目の5人目

は昭和20年卒、元会長の宮田和夫さんは昭和24卒で、共に現在の同窓会組織の礎を築いていただいた方々です。そして前回の東京パラリンピックに深く関わった大池茂保さんは昭和22年卒で、卓球部の創設者です。現在も93歳で現役医師をされています。皆さん獨協人として大変素晴らしいご活躍をされています。

さて、上田新校長が就任されてから半年が過ぎました。コロナ禍で通常の学校運営が大幅に制限される中、まずは獨協の現在の様子を知り、そしてご自身の描く理想の獨協像に向けて歩みだされました。

ご存知のように上田校長は元獨協医科大学病理学と獨協医科大学埼玉医療センター病理診断学の教授であり、2019年に退任されるまで著書（和文21、欧文1）、原著（和文53、欧文161）、症例報告（和文97、欧文62）、総説（和文80、欧文6）等々多くの業績を残されています。中でも腎疾患では日本を代表する病理学者の一人です。上田校長が医大から来たことで多くの大手進学塾が反応し、新校長の挨拶、獨協の紹介、大学進学実績など中学受験の雑誌や業界誌に獨協の特

集を組んで掲載されました。来年度の中学入試が今から楽しみです。

最後に、上田校長は今まで獨協医大、三郷の看護学校等で40年以上に渡り学生、研修医、医局員に病理学を教えるだけでなく、人間形成に重きを置いて多くの素晴らしい人材を育ててこられました。その経験と手腕を獨協中高でも存分に発揮していただけることと期待し、同窓会も全力で協力していく所存です。

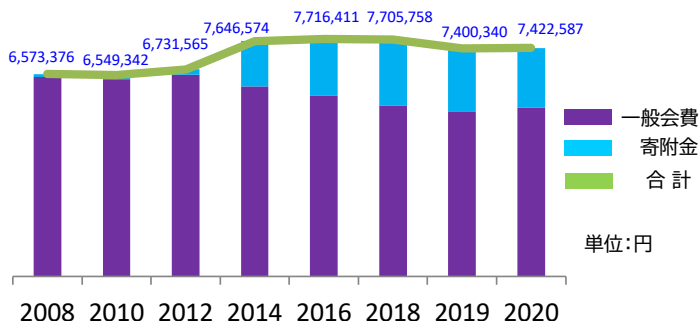
令和3年度 通常総会 報告

幹事長 沖山 秀 司 (昭和49年卒)

令和3年度通常総会は、6月19日（土）午後3時からWEB上にて開催しました。執行部をはじめ、8名が母校中会議室に集まるなか、14名の会員にWEBで参加頂けました。また、委任状を145通受理いたしました。

独協通信95号以降にご連絡頂いた物故会員32名に黙祷を捧げ開会しました。独協通信96号でご案内しました1～4号議案に承認頂きました。

一般会費と寄附金の推移

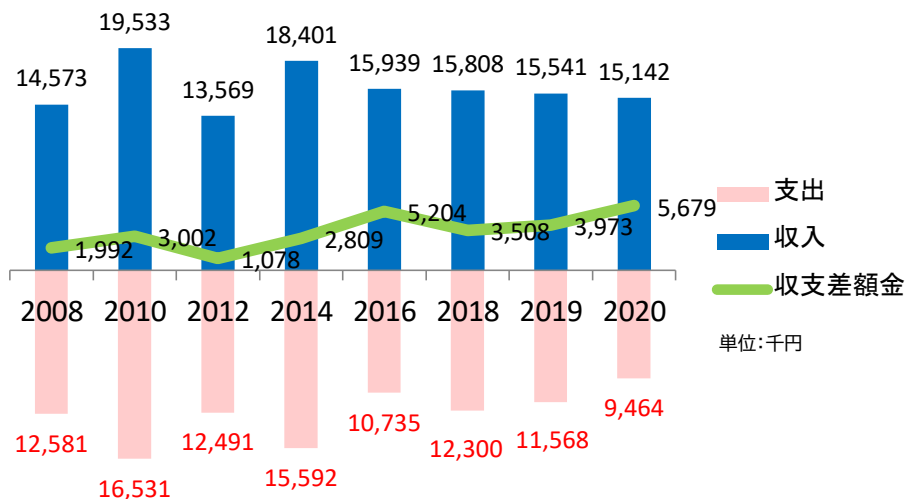


会員の皆様には
年会費の継続納付をお願い申し上げます

【令和2年度の概要】

- ① 支出
コロナ禍のなか、コスト削減を目指した結果、前年に比べ2,104千円の減額を実現しました。
- ② 収入
一般会費納入額の減少傾向が続き、前年に比べ399千円減収となりました。
- ③ 収支差額金
総会懇親会を中止した事が加わり、前年に比べ1,706千円の増額となりました。
- ④ ホームページのリニューアル
同窓会ホームページをリニューアルし、スマートフォン等からも閲覧可能とし、独協通信もPDFでダウンロード頂けるようになりました。クラス会等の補助金申請も可能になりました。

同窓会出入金額の推移



目白だより



教頭 松本麻里子



上田校長による医学部志望の高校3年生への特別講習

久しぶりに「目白だより」を書くにあたり、手元にある「独協通信」を読み直してみました。2019年（令和元年）12月発行の93号には、総会・椿山荘での懇親会の様子、獨協祭への参加報告、ドイツとの交流、クラス会・OB会の記事が踊り、発行された当時は、これが「普通に」続いていくことが当然のことと思っていました。

学校の様子が大きく変わったのは、2020年3月2日でした。その4日前に全国の小中高等学校に突然の休校要請があり、本校でも急遽3月2日から5月末までの臨時休校を余儀なくされ、学校としては異例なことが続きました。6月に学校が再開された後も、分散登校、短縮授業による下校時刻の繰り上げ、クラブ活動の自粛、行事の延期や中止、朝の検温と健康観察、昼食時間の黙食、マスク着用による換気と三密回避……。生徒たちにとっても、神経を遣い、気が滅入ることも多々あったとは思いますが、そこは獨協生、登校さえできれば、友人と、先輩後輩と、教員と、いつもの笑顔、会話が広がります。

その中で、昨年度から今年度にかけて大きく変わったのが学びの方法です。これは本校だけの話ではありませんが、ICT機器を用いた取り組みが急速に広がりました。生徒たちは、昨年度の完全休校中は、教員が作成した授業動画の配信による授業を受け、今年9月の分散登校では、クラスの半分の生徒が登校して授業を受け、残りの半分はPCを通して中継される授業を自宅から受けました。通常の授業でもPC（本校ではChromebookを生徒全員に購入してもらっています）を用いることが多くなっており、学びの幅が広がりました。

今もコロナの影響は残っていますが、これを書いている10月下旬現在では、学校は少しずつ日常の平穩を取り戻しつつあり、日程を延期した、獨協祭、中学

体育祭、中高修学旅行などに向けて準備が進んでいるところです。

このような大きな変化の最中に、校長として着任されたのが本校卒業生でもある上田善彦先生です。大変な時期ではありますが、明るく、精力的に生徒と関わられ、医学部志望の高校3年生へは医師に求められる資質と受験に向けての心構えについての特別講習、朝礼では全校生徒に向けて獨協学園の歴史や学園内のつながりについてなどをお話されています。校長室のドアを開け放し、生徒たちが室内に向かって元気に挨拶をしたり、恐る恐る覗きこんだり、ということが日常の一コマになっています。

教育や学習のあり方はこれからさらに変化していくことになるでしょうが、この1年半で、学校という場にとって、人と人が直接向き合って活動することがいかに大切か、ということを実感しました。新たな学びを取り入れつつも、多感な中高生を育てる学校が持つ、普遍的な役割が変わることなく大切にしていきたいと思っています。

また卒業生の皆様を自由に、笑顔で迎えることのできる日が戻ることを心より願っています。



分散登校での対面・オンラインのハイブリッド授業

同窓会を振り返って

獨協同窓会を偲ぶ

私達の学年は旧制である。

獨逸学協会中学校は五年制、昭和15年4月、筆記試験なし、小学校の内申書と体力テスト、面接だけの入学試験で入学した。翌、昭和16年12月8日の第二次世界大戦開戦は2年生の2学期末で迎えた。

習志野の野営、大久保練兵場での訓練など教練の活発な時代だった。

大戦末期、敗戦色濃厚な昭和19年4月、私は米澤高等工業学校（入学後米澤工専→山形大学工学部）に入学した。学内寮「白楊寮」に入り集団生活。

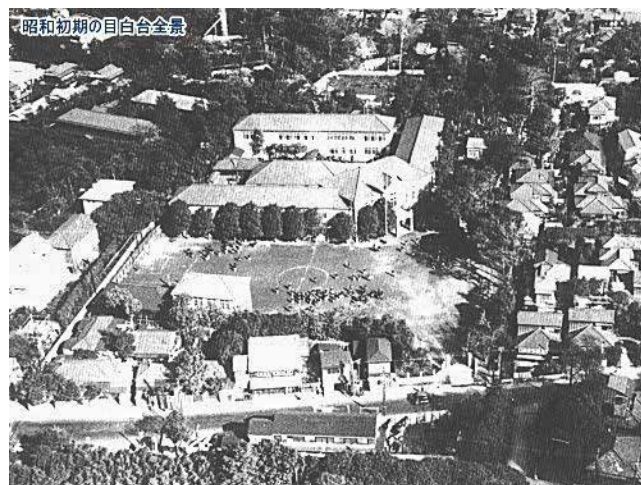
ひどい蛮から学校で驚いた。先輩のストームに苛まれ、食糧事情も不良、勉強どころではなかった。学校では（寮ではの方が正しい）近在の農家へのアルバイトを世話したり、人手不足を利用して生徒の生きる道を斡旋した。学友、福島県立会津若松中学校出身の生亀照夫殿に若輩の私は大変お世話になった。彼は明治維新（戊辰戦争・会津戦争）白虎隊の末裔で古武士の風采があった。「いつでも国の為に死ぬるか」と言っていた。

夜、中央に小川のせせらぎが流れ、背の高いポプラが聳える学校の庭に出て、月の光に打たれ、蒙古放浪歌など寮歌を唄った。マントを着て、朴歯を履き寮歌を唄いながら街中を闊歩した。米澤の市民は高工生と呼んで大事に扱ってくれていた。学生の悪あがき（アタック）に対しても随分おおらかで、余り問題にしないでくれた。



米澤高等工業学校は、東工大、阪大工学部、京都工芸繊維大、名工大、熊本大学工学部、東北大学工学部に続いて1910年に設立された。

黒沼昭夫（昭和20年5卒）



昭和初期からの校舎、下部の道路は「目白通り」

化学工業科の進路は化学工場である。化学工場は何処の工場も山間僻地か、海辺に立地され、都会とは程遠い。米軍の空襲爆撃で、東京よりも先に化学工場は著しく破壊され、就職できる所は皆無であった。

昭和22年3月、卒業になって東京へ帰り、中外製薬（株）に就職できたのが、全くの幸運だった。我家は空襲で被災し、住む家がなく流浪の生活だったが、偶然就職の時点、知人の世話で練馬区関町の借家に住めたので就職の救いになった。

学友生亀は、新制福島県立会津工業高校の教員に職を得て、定年まで勤め通した。当時は学校の先生しか職がなかった。

それから70余年の歳月が流れた。

化学工場はカドミウム汚染、水銀汚染等公害問題に直面させられ、難題に晒された。

会津という雪国に育った生亀は、冬の都度の雪掻き除雪に耐えられなくなって、会津の家を処分して千葉県に移住した。移住後足を病み歩けなくなり、ご子息に世話をされて、東京八王子の老人施設に入居、車椅子の生活になった。熱心なクリスチャンで神学の勉強をしていた。私が妻を亡くして、亡妻を偲ぶ書物「ひとりごと」を作成した時、それを持参して彼を見舞った。その書物の25頁、結婚式の写真に写るホイベルス神父を見て、彼はびっくりした。彼もホイベルス神父に憧憬、尊敬し世話になったそうだ。奇縁の不思議を語り合ったものだ。

ホイベルス神父は上智大学の学長を務められたと聞く。私の結婚式の時点、既に「日本で40年」の著作

があり、劇作「細川ガラシア夫人」を著するなど、大変な日本通である。

昔から生亀とは年賀状のやり取りをしてきたが、何故か今年は彼からの賀状が届かなかった。彼は95才。西へ旅立ったか、それとも字が書けなくなったか。彼特有の潔癖な、自分を表現したがる性格から、社会を断絶してしまったのではないかなど、いろいろ考えさせられた。当り障りのないご機嫌伺いをしていても意味がない。半信半疑で半年程過ごしたが、思い余って共に唄った寮歌だけを送ることにした。文章は一筆もなしで。

蒙古放浪歌

心猛けくも鬼神ならず
人と生まれて情けはあれど
母を見捨てて海超えてゆく
友よ兄らといつ又会わむ

半月程して返事が来た。これは嬉しかった。ほっとした。手紙に亡妻を偲ぶ「ひとりごと」に触れられていたので、私もさっそく読み直してみた。ホイベルス神父の詩を同封してくれていた。(後文に掲載する)。

雪深い米澤。厳冬期、寒風吹き荒れる中、皆で寮歌・蒙古放浪歌を唄った。肩を組みこぶしを振り、生亀や学友達の顔が思い浮かぶ。殆んどが遠く旅立ってしまった。日暮れに、月や星を見上げることもある。往時が偲ばれ、胸が熱くなる。

老いの道を歩みながらも、生亀と私の胸中に、お互い青春時代が蘇った。



2018年9月23日 獨協祭にて 木原会長と共に
向かって左側が筆者

同窓会を偲ぶ一事例を記述した。夢中で社会を生きていた頃には、同窓会のことなど考えたこともなかった。若い人達はそれはそれで良いと思う。社会の務めを終え、余後の年代に入ると同窓会の存在がしみじみ有難いと思うようになる。ある意味で、これは年をとらないと分からない。

私が獨協同窓会に顔を出したのは、クラスメート名倉達、石井和司、根本達久、神山一郎等に世話になり、仲良くしていただいたことが縁である。神田の料理屋「昇龍」でヒゲの鈴木浩同窓会長、太田資、姫路獨協大学へ行った合田憲と懇親した。神山に誘われて、同窓会常任幹事になった。姫路へ行って亡くなった合田監事の後釜に中村昭美殿(昭41年卒)から推挙され監事になった。

私は公立昭和病院で3回程手術を受けているが、現谷田貝副会長が昭和の担当医に私を紹介いただいたのが有難かった。

在学中、獨協の先輩先生から昔は5年を10年で卒業した者が居たと教えられたが、同窓会役員を経験して、それが天野貞祐校長だったと知った時は驚いた。笑い話である。

同窓会の健全な発展を祈る。

参考まで、ホイベルス神父の詩を添える。

この世の最上の技は何？

楽しい心で年をとり、働きたいけど休み、
しゃべりたいけれども黙り、
失望しそうな時に希望し、
後順に、平静、おのれの十字架をになう。
若者が元気いっぱい神の道をあゆむのを見てもねたまず、
人のために働くよりも、謙虚に人の世話になり、
弱って、もはや人のために役立たずとも、
親切で柔和であること。
老いの重荷は神の賜物。
古びた心に、これで最後のみがききかける。
まことのふるさとへ行くために。
おのれをこの世につなぐくさりを少しずつはずしていくのは、
真にえらい仕事。
こうして何もできなくなれば、それをけんそんに承諾するのだ。
神は最後にいちばんよい仕事を残してくださる。
それは祈りだ。
手は何もできない。けれども最後まで合掌できる。
愛するすべての人の上に、神の恵みを求めるために。
すべてをなし終えたら、臨終の床に神の声をきくだろう。
『来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ』と

ヘルマン ホイベルス神父(1890-1977)がドイツに帰国後、
南ドイツの友人から贈られた詩。

同窓会を振り返って

あの頃の思い出

宮田和夫（昭和24年卒）

新型コロナ禍も一年半を超え、本当にうんざりする。巣ごもりをしていると昔のことをぼんやり思い出したりするが、コロナ治療に携わって多忙な木原会長からわざわざ電話で、「昔話でも」との話があり、徒然草ではないが、心に浮かぶよしなしごとを二三書きつけてみることにした。



もう随分昔のことになるが、大場荘介君（元副会長、元文京区議会議員）に誘われて獨協百年史編纂の座談会に出席した。7～8人の出席者だったが我々2人以外は独逸語組で、顔見知りの久保田宏君がいた。主題は「終戦前後の学園生活」だったが、中学3年生で終戦を迎えた我々にとっては、忘れ得ぬ強烈な体験の時期であり、座談は大いに盛りあがった（獨協百年第3巻に収録）。その後も久保田君とは自宅が近いこともあって、時々顔を合わせた。彼は同窓会の要職についており、その話に及ぶと、役員に重鎮が多く改革の必要がある。会則が現状とそぐわないところがあり、それを改正するのが宿題だなどと云っていたのを思い出す。



2019年9月21日 獨協祭にて

その後不思議な縁で、平成11年に久保田君の後任として副会長となり、翌年に菅野会長の後任として会長の要職につくことになった。

当時の財政状況を見ると、積立金8000万円を有し、年間予算1500万円程度で運営されていた。然し新校舎建築協力のため、4000万円を寄付したので、積立金は半減していた。その経理処理は基本金3000万円、事業費積立金1000万円の取崩しである。基本金の取崩しは普通の会社なら減資に相当し、赤字補填のときなどに行う処理である。当然見合の資産は長期運用している。また予算書を見ると支出の冒頭が事務費で、事業費は次の項目になっている。つまり、予算書が資金運用表方式で、同窓会事業で何をやるのか、どの程度の予算でやるのかが劣後している印象をうけた。早速、管理会計の考え方で予算を作るよう提案した。

以上の様なことから、時恰も新世紀であり、合田副会長、森上幹事長と協議して「委員会」を設け、予算、決算書のあり方、会則改正という大事業に取り組むこととした。



現在の校舎は平成10年(1998)に竣工した

会則の改正は結構大部に及んだ。役員会、総会の規定を整備し、新たに資産及び会計の章を設け、基本財産及び運用財産の区分や処理を明定するなど、可及的に会則全体に目配りをした。

この年「獨協学園ドクターズクラブ」が発足した。医の獨協と云われ、多数の医師を輩出しているのに、今までそういう組織が無かったのである。昭和35年卒の荒川泰行氏、鈴木荘太郎氏（後の同窓会長）、松島正浩氏そして藤田実彦氏の4医師が世話人となって同窓会名簿をもとに900名に及ぶ医師を抽出する大作業に取り組み発足にこぎつけたのである。会員名簿は同窓会の貴重な財産である。

私はこの話を聞いて、同窓会名簿に医師歯科医師の専用ページを設けたらどうかと考えた。使い勝手上便利じゃないか、他校例もあり検討に入ったが、名簿が漏れて電話、訪問等で却って迷惑がかかるのでは、等の意見もあり、個人情報保護法の制定の話が浮上し、沙汰止みとなった。

この機会に、会員名簿をコンピューターで管理することとし、日銀の業種分類表を参考に分類表を作成し、信頼できる外部機関に委ねることとした。ホームページの作成の検討に入ったのもこの頃だったろうか。

以上、思い出すままに書き付けてみたが、当時新校舎が竣工して、念願の同窓会室を設置でき、事務局員



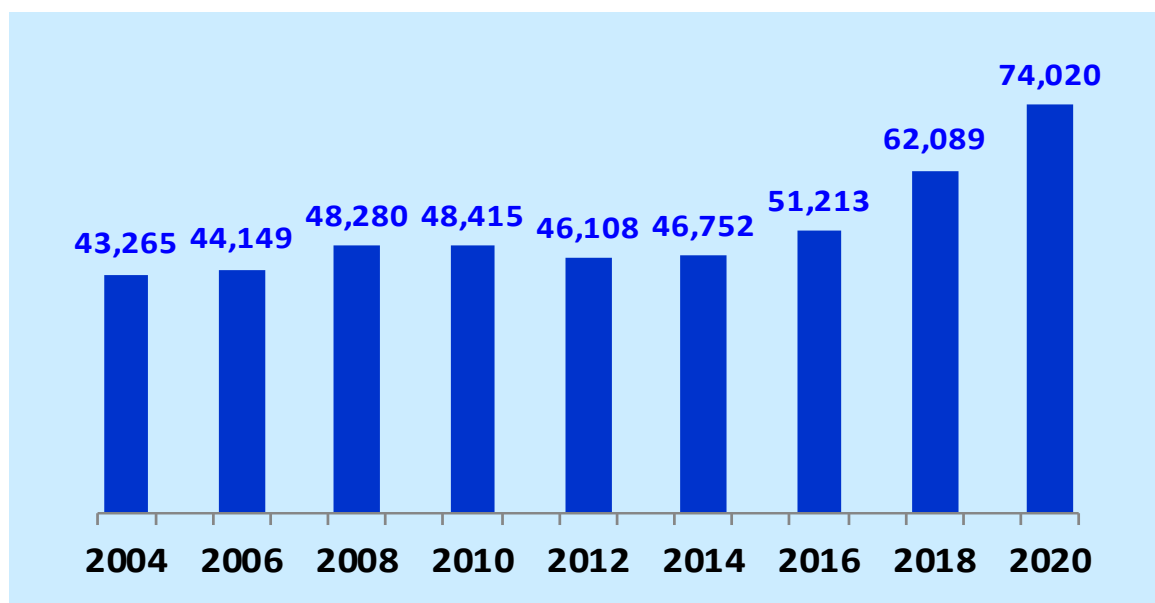
も1人置いて、それまで学校に委託していた事務を引き取り、漸く一本立ちしたところで、事務の習熟、インフラ整備の時期だったように思う。

それから20年経つ。現在の運営状況からみると、まことに今昔の感である。以後歴代の会長、役員諸氏の努力とアイデアで、業務も充実し、事務も整備され、財政状況も積立金7400万円と過去のピークまでもう一步のところに来ている。

老人の戯言もここで打ち止め、同窓会の一層の健全な発展を期待して筆を擱くこととしよう。

以上

【獨協同窓会 資産の推移】



単位：千円

【同窓会では次の通り、母校へ寄附を実施しています】
 1998年 新校舎建設 40,000千円 2003年 創立120周年 10,000千円 2013年 創立130周年 10,000千円
 寄付に際しては、積立金を取崩して実行

大池茂保さん (昭和22年卒)

読売新聞オンライン

東京2020パラリンピック

トップ ニュース 日程・結果 号外 選手名鑑 競技 写真 名場面 五輪 過去大会

ニュース

2021/08/23 05:00 [読者会員限定]

卓球通じ 社会復帰を支援 1964パラ 人生変えた 2020大会あす開幕

新型コロナウイルスの影響で初の1年延期となった東京パラリンピックが24日、開幕する。夏季では1964年以来の日本開催で、東京は夏のパラを2度開く初めての都市になる。新型コロナの感染拡大が続く中で大会に不安の声もあるが、57年前を知る人たちは「共生社会の実現に向けたきっかけにしてほしい」と願う。

(虎走亮介、高田悠介)



1964年大会の卓球ダブルスで優勝した渡部藤男さん(左)、猪狩靖典さん(右)と2人を指導した大池茂保さん =大池さん提供

「パラには社会を変える力がある」。埼玉県のリハビリセンターの院長を務める大池茂保さん(92)は、そう語る。前回東京大会の卓球男子ダブルスで金メダルを獲得したペアを指導した。

整形外科が専門の大池さんは当時、福島労災病院(福島県いわき市)に勤務。そこには、仕事上の事故などで脊髄を損傷した多くの患者が入院していた。リハビリ以外にはベッドで過ごす時間が長く、大池さんはパラを「患者が社会に復帰するきっかけにしてほしい」と思い立つ。中学の頃に始め、得意だった卓球を車いすの患者に教えた。

その中で頭角を現したのが、猪狩靖典さんと渡部藤男さんだった。毎日2～3時間、熱心に手ほどきした。当時、車いすに対応した車両はなく、2人を救急車に乗せて各地の病院や療養所を回り、試合経験を積ませた。本番の会場となった国立代々木競技場(東京都渋谷区)へも、福島から救急車で向かった。

猪狩さんと渡部さんを含む日本選手の車いすは病院で使っていたものだったが、海外選手は競技用のしっかりしたものだった。それでも2人は勝ち進み、決勝で英国ペアを下し、前回大会で唯一の金メダルを日本にもたらした。

大会後、大池さんは横浜市内の病院に移った。猪狩さんは福島で療養を続けたが、渡部さんには異動先の病院に事務員として働ける場を作り出すことができた。

「様々な障害を持つ人への理解が、さらに深まる大会になってほしい」。手元に残る当時の案内を見返しながら、大池さんは期待する。



当時を振り返る大池さん

— 読売新聞オンライン2021年8月23日の記事から抜粋 —
読売新聞社の承諾を得て掲載しました

卒業生紹介



この度、2020 パラリンピックの開催に際し、大池さんは読売新聞及び朝日新聞社から取材を受けました。前ページに読売新聞 8月23日の朝刊、及びオンライン版に掲載された記事をご紹介します。

大池さんは、獨逸学協会中学校卒業後、日本医科大学へ進学され、整形外科を専攻しました。そして脊髄損傷患者さんの治療に携る中、1964年東京パラリンピックにて大池先生が指導した車椅子男子卓球ダブルスは金メダルに輝きました。(この大会で唯一の金メダル)



日本医科大学同窓会報 2013年4月25日 の寄稿文を元に写真・ご略歴などを加えて紹介いたします。

卓球とは何か。初めて見たのは小学生の頃、学校対抗で受け持ちの先生たちの試合を見に行った時だ。その瞬間、自分に合うスポーツだと思った。その後、校内に置いてあった卓球台で2~3回それらしいことをしたことを覚えている。

獨逸学協会中学に入って二年の始めは、学徒動員によって都電の通路に倒された家屋の整理を行った。続いて王子駅から歩いて陸軍の軍需工場に回され、旋盤を使用して飛行機の弾丸を作っていた。昭和20年4月頃、空襲が多くなり栃木県に疎開する。同年8月、夏休み中に終戦。同級生は皆英語だったが、私はドイツ語だったため、焼けなかった世田谷区に帰京した。

夏休み終了後、獨協に行ってみると、地面に卓球台が置いてあり、使用しても、もう先生たちはうるさく言ってこなかった。当時の卓球部顧問は美術の仁戸田先生だった。

昭和22年、日本医科大学(当時は千葉县市川市の兵舎の建物であった)に入学した。旧制の最後であった。直ぐ卓球部に入部した。2年上級生に、私とほぼ同程度の先輩が2~3名、3年上級に、元日本医師会長になられた坪井栄孝(レントゲン科)先生がいらした。2~3回お手合わせをお願いしたことがある。

昭和28年より卒業するまで、私は卓球部キャプテンを引き受けていた。本校は当時、関東大学生卓球連盟に加盟していたが、3部あるいは4部程度であった。また、別に医歯薬大会があり、東歯が強かった。昭和30年春、医師国家試験終了後、東京労災病院長の紹介で東北大学整形外科教室に入局した。

東北労災病院及び仙台国立病院、福島労災病院その他の病院に赴任した。各病院で卓球部を作り、その地の親善試合に出場した。当時は保健所には若者が多く強かった。



【ご略歴】

- | | |
|----------|--|
| 昭和30年 3月 | 日本医科大学卒業 |
| 昭和31年 3月 | 都立広尾病院 インターン終了 |
| 昭和31年 6月 | 医師国家試験合格
東北大学整形外科教室入局
日本整形外科学会入会
東北労災病院勤務 |
| 昭和34年 7月 | 福島県塙厚生病院勤務 |
| 昭和37年 7月 | 国立仙台病院勤務
東北大学 医学博士号授与 |
| 昭和38年 7月 | 福島労災病院勤務 |
| 昭和40年 7月 | 横浜市鶴見総合病院勤務医 |
| 昭和58年 3月 | 日本整形外科学会専門医 |
| 昭和59年10月 | 横浜市鶴見区真田病院勤務 |
| 平成12年 6月 | 横浜市鶴見区真田病院退職 |
| 平成13年10月 | 湘南グリーン介護老人保健施設 施設庁就任 |
| 平成16年 1月 | 栄聖仁会病院勤務 |
| 平成16年 6月 | 瀬谷区甕生病院勤務 |
| 平成17年 1月 | 湘南グリーン介護老人保健施設 施設庁就任 |
| 平成26年 3月 | 湘南グリーン介護老人保健施設 退職 |

卒業生紹介

私は毎日汗を流しながら、患者たちに卓球を指導した。患者たちの技術も上達したので私は北は東北労災病院、南は箱根療養所の各施設・病院と試合をして敗れることがなかった。このため、東京オリンピック（1964）後に開催されるパラリンピック（患者の社会復帰が目的）に出場してみたいと考えるようになった。

福島労災病院の事務方に依頼し、直接パラリンピック事務局へ問い合わせしてもらったところ、出場の許可を頂けた。

パラリンピックには患者二人と監督の私が、代々木の元オリンピック会場に入場。試合開始となる。国別に下半身麻痺の程度が違い、歩行及び室内を歩く人もいて私は驚いた。パラリンピックは当時まで、脊髄損傷患者のみであったが、その後、身体障害者の大会となり、四肢の欠損、運動麻痺などが入った。

私は卓球の試合しか頭になかったが、多くの競技種目があった。最後に我々の卓球ダブルス（猪狩靖典・渡部藤男）が優勝し、妃殿下より金メダルとトロフィーを頂戴した。それ故、日本は沢山金メダルを獲得したと思っていたが、我々一組だけであったことが閉会した後に知った。

その後は病院に帰院してから翌年7月に退職するまで忙しかった。社会復帰が目的のパラリンピックゆえ、私もその一つを担う気持ちでそのスポーツの訓練を再開した。労災監督署は、パラリンピックに出場した患者二名のうち、やっと一名に社会復帰の許可をだした。



昭和40年、新築なる横浜市総持寺鶴見総合病院に転勤となった。転職時には、その一名の患者を私の車の助手席に乗せ、多数の病院関係者、報道陣に囲まれた中を出発して横浜に向かった。この患者は、病院では入院、電話交換手として採用してくれ、その後は事務一般職に変更となった。この病院には卓球台が一台あって盛んに先を競って運動したものである。

私は鶴見総合病院及び日本医大の先輩が院長の真田病院に、それぞれ20年近く勤務した。その後、年齢の事情もあり横須賀の老健に転勤した。真田病院勤務中は、鶴見区医師会の卓球部に入部させていただき、週1回の練習を続けてきた。この医師会は私より高齢者が多く、徐々にメンバーが減少。最後には区内の大関先生と私の二人のみとなってしまった。しかし、大関先生は11年前に亡くなり、完全に卓球部は消滅した。

時々日本医大卓球部より連絡があった。しかし、OB会を15年ほど前にやってくれば、私も出席して試合に参加したでしょう。最早年齢をとりすぎました。

平成24年 暮



獨協時代に卓球部顧問…仁戸田先生との出会いにより油絵が趣味
2021年10月2日 練馬区のご自宅にて

【褒章】

- | | |
|-----|--|
| 感謝状 | 福島労災病院長
東京パラリンピック（脊髄損傷）にて患者を卓球ダブルスに出場させ、日本唯一の金メダルを受賞されし監督として（昭和39年） |
| 表彰状 | 第二管区海上保安庁
海上人命救助（昭和39年7月） |
| 感謝状 | 小名浜救護所
海上人命救助（昭和40年1月） |
| 表彰状 | 神奈川労働基準局長
永年労災患者の認定医として（平成3年11月） |
| 表彰状 | 厚生労働大臣
永年厚生労働行政に貢献（平成13年11月） |



獨協ぶらり旅

副会長 新井 雅安 (昭46年卒)

「獨協ぶらり旅」では、卒業生が営む飲食店・商店または各界でのご活躍ぶりをご紹介します。思わぬところに同窓生がいます。是非、お訪ねください！

博多かわ屋 上野広小路店

松田 知裕さん 昭和 55 年卒業

東京メトロ銀座線上野広小路駅から徒歩 2 分、黒門小学校の並びにある「たかが焼鳥されど…」の看板が大きく目立つ博多かわ焼の元祖としてテレビなどでも有名な、博多に本店を構える焼鳥専門のお店です。

店主の松田知裕氏は、中学からスキー部がある学校で、また自宅が文京区であったこともあり、徒歩で通学ができることもあり獨協中学を選び昭和 49 年入学。最初の主管は馬越先生、当時は若くお兄さんのような面倒見のよい先生に恵まれ学園生活をスタート。部活動はもちろんスキー部で顧問は体育教師の倉地先生、高校 3 年の時に部長を任された際は、愛情ある鉄拳指導で厳しかったのですがそのおかげで数々の大会で入賞できた思い出もあり、人間形成においても充実した 6 年間でしたとの事。



その後、獨協大学経済学部に進学し、スキー同好会に入り楽しんだようです。卒業後ドイツのボッシュ社(自動車部品等)で勤務した際、ドイツへの出張も多く上林先生から習ったドイツ語の歌が非常に役立ったそうです。



また、国内では九州へ出張が多くそこで「博多かわ屋」を知り、この味を東京に持っていきたいと思いたち脱サラして 4 年前にフランチャイズに参加し開業しました。

2 年目頃より常連の方々が多くなり、軌道に乗り始めた矢先にコロナ禍に入りました。夜の営業が制限されランチなどで持ち堪える努力をしましたが一番の支えは、獨協の仲間やスキー部の先輩後輩が声をかけ続けてくれたことが乗り越えられた最大の要因であったようです。



松田さん(後ろ)と共に、左から行川、新井、谷田貝
2021年10月12日

獨協学園で過ごした 10 年間で今の自分を育ててくれたと恩師や学園の環境に強く感謝しておられました。お店のお勧めは自慢のかわ焼、しぎ焼き、ごま鯖、酢モツなどで、お酒もキンミヤを凍らせたシャリ金レモンソーや焼酎 3M も味わっていただきたいとの事でした。



〒110-0005 東京都台東区上野 1-16-16
電話 03-6304-1203

営業時間
平日 17:30 ~ 23:00
土日祝日 16:30 ~ 22:00
月曜定休日

ご予約の際には「獨協OBの」と必ずお知らせください。ウェルカムドリンクをサービスして頂けるそうです！

サッカー部OB会

会長：沖山秀司（昭49年卒）

サッカー部は1956年に創部されました。しかし実は、「韋駄天」こと金栗四三先生が大正7年に地理の先生として赴任し、徒歩部（陸上部）と共に蹴球部も創部したとの情報が有ります。昭和20年以前にもサッカー部は存在していました。戦後の混乱期を経て昭和31年に再創部されたという訳です。



2009年より学習院高校OBとの交流戦がスタートしました。2019年(令和元年)に第10回を迎えました。(コロナ禍のため、昨年～今年中止しています。)

創部50周年(2006年)を記念してイベントを盛んに企画して参りました。OB間の交流、現役生徒へのグラウンド提供、合宿支援、公式戦の応援(写真撮影)など。

今後も参画頂ける会員を募り、現役生徒への支援を太くし、お役に立てるOB会に発展させて行きたいと考えています。

中学・高校の成長期にサッカー部で心身鍛えていて良かった！と喜びを思い浮かべる事が出来るのは、定年を迎える年齢になってからかもしれません。しかしそこには、プレーの上手い下手、何勝出来たか、などという事は重要ではありません。自分が歩んできた道に感謝の気持ちで胸を張り、将来の希望へ繋げることが大切だと感じています。そして周りの人達に少なからず貢献出来れば一層楽しい人生になるでしょう。

入部期間は問いません、ご興味のある方々からのご連絡をお待ちしています。
h-okiyam@fk9.so-net.ne.jp



OB会ホームページはこちらです



OB講演会に於ける 福島廣樹さん(S41卒)
2015年2月7日

福島さんは早稲田大学へ進学され、体育会サッカー部(ア式蹴球部)で活躍されました。

卒後ケルン大学でS級ライセンスを取得、鹿島アントラーズの前身、住友金属及び本田技研で監督を務めた後、Jリーグマッチコミッショナーに、OB講演会の時は早稲田大学女子サッカー部の監督でした。



思い出深い顧問 吉田卓司先生 ご夫妻を囲んで 忘年会 2019年12月19日
昭和31年に創部したOBは80歳を迎えます。
この年、目白ダービー(学習院高校とのOB戦)は10周年を迎えました。

●戦中昭和 19 年 4 月本校より神山一郎、阿部完市、竹内正和の 3 名が金沢医科大学附属医学専門部に入学した。入学して驚いた事は大学長が明治 33 年卒業の石坂伸吉先生だった。獨協の偉大さに感激した。小生 95 才でまだ元気に自転に乗っています。獨協には家族 4 代 5 名がお世話になっています。獨協万歳。

＜竹内 正和 (昭 18 卒)＞

●目下の所健在 (92 才) なり。少々ひざが痛くなり歩行に苦痛はあまりないが、そうスタスタというわけにはいかず残念なり。6 月同窓会のあとの椿山荘での懇親会がないのがさびしい。来年まで待てるかな？獨協での 4 年間は全く戦時中での生活そして後に敗戦。それでも何か充実していた。先生がすばらしかった。野口先生 (英語)、田淵先生 (生物)、大久間先生 (国語)、相沢先生は教練の先生だったが反戦的な先生だった。

＜石井 進 (昭 20 卒)＞

●コロナ騒ぎは日本の文化まで駄目にしてしまいました。年寄りにはもっと良い方法を考えないといけないと思います。学友にも会えず、同窓会にも会えずの生活です。学校は新校長、同窓会と距離が近くなり良かったですね。＜黒沼 昭夫 (昭 20 卒)＞

●昭和 20 年 3 月 10 日の空襲の後再び登校することのなかった千田、長沢両級友の童顔が眼に浮かびます。そのあとの神官を招いての慰霊式で友の名の後に命 (みこと) の称号がつけました。全校で何人が亡くなったでしょう。中学 2 年の春でした。

＜橋本 徳朗 (昭 23 卒)＞

●齢 83 歳、2021 年 (令和 3 年) 7 月 7 日、七夕の日、突然可愛い「カルガモ親子」が我家のマンションに現れた。あの仲睦まじい親子の絆の勇姿は人間に生きる希望を与えてくれた思いです。歴史と伝統のある獨協で学び、卒業後も校友と親交を深めた事は、我が人生に栄光を与えてくれました。加えて今回の「カルガモ」との遭遇は偶然ではなく、健康長寿の福音を招いたと確信した。＜小川 秀明 (昭 32 卒)＞



●昨年 8 月で 80 才となり開業医生活を終わりにしました。今は毎日がゆっくり流れていい日ばかりです。

＜金子 宏 (昭 34 卒)＞

●「齢を重ねると言う事は、出会いよりも別れがふえると言う事だ」と言われるごとく 81 才を過ぎると廻りの淋しさが身に沁みます。後は自身静かに余生を過ぎるべく望んでいます。＜樋田 修廣 (昭 35 卒)＞

●同期金君の御冥福をお祈り申し上げます。本年互いに八十寿を迎える事であったが残念です。

＜吉田 浩 (昭 35 卒)＞

●金 有一先生を偲んで

昭和 35 年卒の藤田実彦です (ドイツ語クラスでした)。獨協ドクターズクラブの立ち上げの一人です。立ち上げには同級生の故松島正浩 (前東邦大学医学部長)、鈴木壮太郎 (日本医科大学、今回の令和 3 年総会前特別講演予定演者) そして私と同じ日本大学医学部で病院長の重責を果たしていた荒川泰行君と、加えて金有一君の 5 名が協力してドクターズクラブを立ち上げました。金君とは高校 3 年間、その後も進路は変わっても連絡を取り合いながら今日までお付き合いいただいております。

コロナ禍の 4 月上旬に突然の悲報を萩野元祐先生より電話いただきました。一瞬、眼前が暗くなる様な衝撃を受けました。毎年、登山をしながら撮った鉱山植物の写真を送っていただいております。電話でも、気軽に青春時代と同じように話し合っております。余りにも突然の事で言葉もありません。コロナ禍で葬儀にも行けず…写真を見ながら彼を偲んでいます。

合掌 　　＜藤田 実彦 (昭 35 卒)＞

●久しく皆と会ってませんが、健康に元気ですごしてると思われます。小生も一病息災で元気しております。＜小山 憲雄 (昭 38 卒)＞

●古希を過ぎ、足のヒザが変形性膝関節症で歩くのも苦勞しております。このコロナ禍の状況下、銀座に飲みに行くのも出来ず、さびしい思いをして居ります。これも人生の修行の一つと考え般若心経を書き写しています。「俱会一処」という教えに基づいているものです。＜渡辺雅博 (昭 42 卒)＞

●獨協ソフィア会では会員を募っております。私のメールアドレス m-teru48@mth.biglobe.ne.jp へご連絡を。獨協ソフィア会の H.P こちらは閲覧専用です。

https://www.sophiakai.gr.jp/sophiakai_o/o160.html

＜宮崎 輝雄 (昭 42 卒)＞

私の近況

●学園に元校長永井先生が進めたビオトープ教育が根付いています。その原点のドイツから学ぶことは多い。SDGsの先進国のドイツ国民は「物を大切にする」。日本では「勿体ない」に相当するのでは。ドイツを歴史も含め良いも悪いも参考にしたい。我が獨協学園にドイツ語クラスが無くなって久しい。「勿体ない」と思いつつ歯科医師獨協会に携わらせて戴いております。
＜池松 武直（昭42卒）＞

●昭和39年入学、45年卒業1組独語クラス。金先生M3H1主管。先生が亡くなられたのはホントショック。残念でなりません。コロナ禍終息したら久々先生含めて独窓会（クラス会）やりたかったです。私事、古希当日（8月1日）を尾瀬（1泊目：尾瀬檜枝岐山荘、2泊目：老神温泉柴翠邸）で迎えます。

＜青木 秀夫（昭45卒）＞

●上田先生、第23代校長御就任、誠にありがとうございます。
＜荻野 和津（昭48卒）＞

●私は元気で、今も働いています。同窓誌にて同じ48年卒の平田正夫君が亡くなった事を知り、彼のおだやかな表情が私の脳裏に浮かびました。48年卒の同窓会は開いていない様ですね。
＜小野 雅人（昭48卒）＞

●高校在学中からカートで。大学卒業後も途切れなく自動車レースの真似事を続けておりますが近年めっきりタイムが出ず年齢を感じております。96号に近況報告されたS56卒業の宇田川先生にお世話になり獨協所縁の成城学園から歯科大学卒業の息子に頼って気が緩んだかも？笑 身体に気を付けてもう一花を狙って頑張ります。
＜齊藤 勝一（昭50卒）＞

●在職39年の製薬企業を定年退職し、本年4月より新たな会社で総括製造販売責任者（薬剤師）として再スタートしました。今度の会社は定年がありません。健康で体が動くうちは、2人の孫の小遣い稼ぎします。
＜千葉 昌人（昭51卒）＞

●長女が脳神経内科医、次女が医学部2年生になりました。もう少しでお役目ゴメンです。そうしたら獨協時代の思い出に浸りたいと思います。そろそろいろいろと準備しなければ！因みに子に男はいません。獨協には通えませんでした。
＜吉崎 明彦（昭51卒）＞

●金有一先生の突然の訃報にショックを受けました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。私若い頃、地元のご挨拶回りにお付き合い頂いたこと等、大変お世話になりました。旧恩に報いるためにも、更に地元のために全力を尽くさねばと思います。

＜田中 良（昭54卒）＞

●新年度5日前、急な玉突き移動のため、亀有から新小岩北の区民事務所長となりました。所長会の会長になるだけだったはずが、駅ビルや新しい集合住宅の移動者など、やることだらけになりました。

＜藤島 一郎（平7卒）＞

●埼玉国際医療センター脳卒中外科にて、後期研修をさせていただいています。この3月に結婚し、公私ともに新生活、謙虚な気持ちを忘れずにがんばりたいです。これからもご指導の程、宜しく願いたします。
＜佐藤 政哉（平25卒）＞

●日本大学板橋病院整形外科に入局いたしました。2年ぶりに通いなれた大山、そして実家に（下に間借り中）戻りました。場所は同じなのに、日々緊張感や責任の重さを痛感する毎日です。サウナと健康についてが、ライフワークとなりつつあります。猪苗代湖のテントサウナ最高でした。

＜佐藤 侑哉（平25卒）＞

●獨協大学に進学した私は、2年後無事に卒業できれば、人生の半分を獨協で過ごしたことになる。現在、教員過程を専攻して折、万が一、母校の教師になれば、私にとって獨協は特別な存在になるだろう。様々な分野で活躍されてる先輩方を誇りに思い、私も教師を目指し、日々勉学に励んでいる。歴史ある本校の教育に少しでも貢献し、生徒が楽しく学べる様な指導者になりたい。
＜一新 大介（令2卒）＞

●今年から仮進級がなくなり、日々勉学に励んでおります。1年生のうちは教養科目を中心に学ぶため、医学に触れる機会は少ないのですが、2年生・3年生と進級するにつれて医学を学べると考えると、胸が弾む思いです。
＜木下 壮太郎（令3卒）＞

●私は今年（令和3年）4月から獨協大学外国語学部交流文化学科に入学致しました。大学では高校と同じく演劇部に所属しました。大学でのこれからはまだ未知の事ですが、4年間という短い間、無駄にしないよう精進して参りたいと思います。これからもどうぞよろしく願致します。

＜中山 雄暉（令3卒）＞

●大学に進学し、授業も始まりましたが、すぐに緊急事態宣言が発令され、オンライン授業になってしまいました。キャンパスに行く機会も無いので、正直なところ大学生になった実感はあまり湧いていません。

＜檜枝 浩光（令3卒）＞

寄付金納入者一覧（「96号」以降）

（敬称略）

竹内正和（昭和18）	大沢悠里（昭和34）	前田利裕（昭和44）	須田淳（昭和58）
石井進（昭和20）	塩崎晴朗（昭和34）	橋本龍二（昭和45）	菅谷敦人（昭和58）
中嶋政信（昭和20）	里見治（昭和35）	橋本俊春（昭和45）	山崎博之（昭和59）
眞下博和（昭和20）	藤田実彦（昭和35）	小川守一（昭和46）	吉松栄彦（昭和59）
本田光芳（昭和25）	小坂弘道（昭和37）	西原潔（昭和46）	塩島功一郎（昭和59）
末吉信夫（昭和27）	益井邦夫（昭和37）	眞田榮（昭和46）	藤野剛（昭和62）
小嶋鍊一（昭和29）	田島博山（昭和38）	上田善彦（昭和47）	石鳥直孝（昭和63）
桑嶋陽一（昭和29）	柳原克忠（昭和39）	土橋雄二（昭和47）	梶田利文（平成1）
土生裕（昭和30）	山口一彦（昭和40）	森一博（昭和47）	堀智宣（平成4）
小川秀明（昭和32）	齋藤幸一（昭和41）	小野雅人（昭和48）	伊東昌彦（平成4）
高澤克昌（昭和33）	大隅敏彦（昭和41）	萩野元祐（昭和49）	玉井道寧（平成4）
長崎雅彦（昭和34）	石井一平（昭和42）	木村宗孝（昭和50）	國松常芳（平成10）
児島伸一郎（昭和34）	引間規夫（昭和42）	鈴木敏彦（昭和52）	堀切教平（平成11）
岩佐峰彦（昭和34）	池松武直（昭和42）	伊藤英一（昭和52）	井関隼（平成14）
戸川宏一（昭和34）	浅野一（昭和42）	遠山洋一（昭和53）	高嶋正利（平成19）
高橋龍二（昭和34）	宮崎輝雄（昭和42）	清水裕次（昭和53）	稲葉由樹（平成23）
有我昭蔵（昭和34）	須藤明弘（昭和42）	岡部時人（昭和53）	一新大介（令和2）
金子宏（昭和34）	齋藤達雄（昭和43）	野村芳樹（昭和54）	和佐優吾（令和3）
内藤純男（昭和34）	村上喜代次（昭和43）	高田正道（昭和55）	

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入および財務拡充のご寄付をよろしくお願い申し上げます。

獨協同窓会は任意団体のため、寄付金控除制度の対象になっていません。

確定申告での所得控除や税額控除は受けられませんので、予めご了承ください。

独協通信 98号（令和4年6月初旬発行）の原稿募集

締切日：令和4年3月末

同窓生の皆様から、投稿をお待ちしています。

- ① ドイツ語圏における体験など（800字）
- ② クラス会、OB会、など集いの報告（200字）
- ③ 獨協の思い出（800字）
- ④ 近況報告（200字）

*頂戴しました原稿への加筆・修正、一部削除などをご承知ください。

*独協通信は同窓会ホームページにも掲載されますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

郵送の場合 ➡ 〒112-0014 文京区関口3-8-1 獨協同窓会

メール ➡ info@dokkyo-mejiro.com

電話 ➡ 03-3946-6352（毎週月・木 13:00～16:00）

平成の卒業生を募集しています

同窓会の運営に参加いただける方を募集しています。

独協通信の編集、獨協祭での展示や同窓会運営のアイデアなど、平成の風を欲しています。

年に数回の会議に参加可能な方、ご連絡をお待ちしています。

独協通信OB会紹介コーナーについて

独協通信92号から新たにOB会紹介コーナーを設けましたので、振ってご投稿ください。

文字数・写真などは本通信12ページのサッカー部OB会をご参考にしてください。

メール ➡ info@dokkyo-mejiro.com 電話 ➡ 03-3946-6352（毎週月・木 13:00～16:00）

趣味のコーナー

数学科で長年ご活躍された **田代雄一先生の油絵** をご紹介いたします。

田代先生は2018年3月5日に逝去されました。銀座の画廊にて毎年のように個展を開くほど、油絵に興じていらっしゃいました。卒業記念に生徒の肖像画を描き贈られたことも数々。

ご紹介する2作品は奥様のご厚意を得て同窓会にてお預かりしています。ご興味のある方はご連絡ください。

在職期間：昭和34年4月～平成10年3月



20号 (727mm x 606mm)



6号 (410mm x 318mm)



グッズ紹介

- ポロシャツ : 2019年新作がデビューしました(色=インディゴorホワイト)。S・M・L・XL・XXL ございます。2018年モデルは在庫限り(M・Lが少々)です。
- 三色ボールペン : 2019年獨協祭でデビューしました。
- ピンバッチ&カフスボタン : 2018年デビューです。
- 野球部応援グッズ : Tシャツ&キャップ2018年デビューです。



ご希望の方は幹事長までご連絡をお願いします
 電話 090-9310-1553
 h-okiyam@fk9.so-net.ne.jp
 沖山秀司(昭和49年卒)



クラス会・OB会等補助金のお知らせ

同窓会では1開催につき1万円の補助金を助成しております。(ホームページからも申請出来ます。)

- 対象となる会合：クラス会、年度クラス合同会、地域支部会、OB会、その他(学年を越えたドイツ語クラス会等)。参加人数は5人以上。
- 回数：いずれも年1回。
- 申請：開催責任者が事務局に申請して下さい。
- 添付書類：案内状等があるときは添付して下さい。
- 報告：開催報告を「独協通信」へ是非寄稿して下さい。

ご連絡をお待ちしております。

物故者名簿(『独協通信』96号以降) ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏名	物故年月日	昭和24年	久米 實	2021/5/11	昭和35年	清水 修司	2006/6/8
			昭和24年	阪井 伸一	2017/3/21	昭和36年	佐藤 道之	2017/1/28
昭和14年	山岸 郭郎	2021/5/2	昭和25年	岩井 繁	2020	昭和44年	広瀬 真巳	詳細不明
昭和14年	槻谷 一英		昭和25年	田中 兌	2019/11/23	昭和45年	染谷 悦郎	2020/8/5
昭和18年	加治 正	2020/8/21	昭和25年	谷村 幸愛	2021/4/28	昭和46年	竹内 和彦	2021/3/23
昭和18年	森田 忠治	2020/2	昭和25年	橋本 道夫	2021/1/28	昭和46年	村上 彰俊	2021/4/9
昭和19年	永井 福助	2019/11/25	昭和27年	宮本 龍一	2021/2/3	昭和48年	石井 誓二	2021/2/24
昭和20年	齋藤 安彦	2005	昭和30年	田口 忠男	2018/8/31	昭和49年	石田 昌一	2019/12/5
昭和20年	清水 寛	2020/11/3	昭和30年	八木 俊三	2020	昭和51年	瀬口 忠雄	2020/2/17
昭和20年	眞下 博和	2020/8/29	昭和30年	山田 信夫	2020/7/21	昭和53年	大岡 逸男	2020/11/19
昭和20年	村田 昭一郎	2020/1/30	昭和31年	石橋 慶一	2021/4/16	昭和53年	岡部 時人	2020/7/24
昭和20年	山賀 七郎	2011/11/6	昭和32年	山岸 郭郎	2021/5/2	昭和58年	張替 直基	2021/1/29
昭和21年	阿部 恒巳	2017/10	昭和33年	奥山 雅司	2011	平成06年	小川 智史	
昭和21年	有竹 雅夫	2017/6/8	昭和35年	小川 清一	2016/11	平成11年	下出 真義	2010/11/21
昭和21年	大木 新彦	2021/10/1	昭和35年	金 有一	2021/4/12			

96号でお知らせしました物故者に誤りがありました。 誤：昭和62年卒 竹内 和彦様 正：昭和46年卒 竹内 和彦様 訂正して心よりお詫び申し上げます。

～甲状腺を病む方々のために～

ITO HOSPITAL 伊藤病院

院長 伊藤公一 (昭和51年卒)

TEL. 03-3402-7411 東京都渋谷区神宮前4-3-6 www.ito-hospital.jp

医療法人社団甲仁会
理事長 伊藤公一

NAGOYA 名古屋甲状腺診療所

TEL. 052-252-7305
名古屋市中区大須4-14-59
www.kojin-kai.jp/nagoya/

SAPPORO さっぽろ甲状腺診療所

TEL. 011-688-6440
札幌市中央区大通西15丁目1-10 ITOメディカルビル札幌5F
www.kojin-kai.jp/sapporo/



医療法人社団

野村会 昭和の杜病院

東京都昭島市宮沢町 522-2

理事長 野村芳樹 (昭和54年卒)

医療療養型 180床・透析ベッド 36床

入院(一般内科・透析)・外来透析・各種健康診断随時ご相談ください

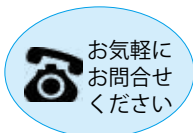
TEL 042-500-2611 FAX 042-500-2612

SASAKI LAW OFFICE 佐々木綜合法律事務所

東京都千代田区神田須田町1丁目26番 芝信神田ビル10階

TEL 03-3255-0091 FAX 03-3255-0094

相続・不動産・企業法務など
さまざまなお悩みを承っております。



東京弁護士会所属
弁護士 佐々木 広行 (昭和61年卒)
[平成28年度 東京弁護士会副会長]

法人経営者及び個人事業主の経営・会計アドバイザー

中島達弥

実務家として寄り添い、協働することをモットーとしております
病院等の医療機関も含めたあらゆる業種の会計監査、顧問に加え
社外監査役や監事も承っております

(略歴)

1990.10 ~ 2020.6 : 有限責任監査法人トーマツ(2007年~パートナー)

2020.7 ~ : 中島達弥公認会計士事務所開設

中島達弥公認会計士事務所

S61卒

mobile : 090-3478-8233

e-mail : tat.nakajima@ms01.jicpa.or.jp



ベアAGAクリニック
BEA A.G.A. CLINIC

院長 清水 崇裕 [平成17年卒]

薄毛治療ならベアAGAクリニック

◆薄毛でお悩みの獨協卒業生の皆様、お気軽にご連絡ください

〒160-0022 東京都新宿区
新宿3丁目14-22 小川ビル4階

獨協割あり・ご予約はこちらから▶

TEL:03-5925-8241 *木・祝 休診



獨協同窓会支部会の立ち上げ

地域別の獨協同窓会支部会

(北海道、東北、九州、海外等の単位で)を立ち上げませんか。
ご賛同いただける方は同窓会事務局までご連絡ください。

メール ▶ info@dokkyo-mejro.com

電話 ▶ 03-3946-6352 (毎週月・木 13:00 ~ 16:00)

編集後記

今号では同窓会を牽引頂いたお二人の先輩と1964年東京パラリンピックに深く関わった大池さん取材させて頂き、感動いたしました。

昭和20年(5年制)卒の黒沼さんからはホイベルス神父を教えてくださいました。前号で戸川宏一さん(獨協ソフィア会)に寄稿頂いた上智大との縁を思い起こします。定年を迎え第二の人生をあゆみ出した頃より神父の教えは支えになることと思います。我が同窓会もその使命を新たに、歩み続けたいと思います。

獨協祭、今年は11月6日・7日に校内で開催されました。

入校可能者には制限が有り、同窓会の展示は見送られました。2022年からは例年通りの活動が出来る世の中になることを祈念するばかりです。

クラス会・OB会など再開される時には是非、同窓会にご連絡ください。ホームページから補助金の申請が可能です。

沖山



Hermann Heuvers

(1890年8月31日~1977年6月9日)

イエズス会所属のドイツ人宣教師、哲学者、教育者、作家、劇作家。
1923年来日し、上智大学2代目学長(1937年~1940年)

1924年~1966年 上智大学教授
1933年~1959年 東京保育専修学校・母子専修学園講師
1946年~1949年 第一高等学校講師
1949年~1956年 東京大学教養学部講師
1949年~1964年 白百合短期大学講師
1949年~1965年 聖母女子短期大学講師